

大学と学校との協働による 「主体的・対話的で深い学び」の実現を 目指す社会科学学習プログラムの開発

国際文化学部
日本文化学科
教授

太田 清治



研究シーズの紹介

本研究は、中学校社会科学学習指導要領の目標・内容等、学習評価、指導技術及び教科指導における生徒指導、模擬授業等、社会科学教育法や社会科学指導法の講義で培った学生の基礎的実践力を学校現場とどのようにつないでいくかという研究である。

研究活動の概要としては、社会科学指導法の模擬授業学習指導案（学生作成）を、中学校社会科教員等が「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指す授業の視点から修正し、検証を行うことにより、大学と学校現場が協働して中学校社会科学学習プログラム（学習指導案集）を開発しようとするものである。



令和4年度（1年次）及び
令和5年度（2年次）の
主な取組と成果

- 学生による中学校社会科とSDGsとの関連を図った学習指導案作成と模擬授業の実施、学習指導案の自己修正



模擬授業①



模擬授業②

期待される活用シーン

- 講義を通じた学習指導案の作成、模擬授業、授業協議会での反省、学習指導案の修正



単元の目標や内容の理解の深化



社会科学学習プログラム



- 中学校社会科教員等による「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指す授業の視点から学習指導案の修正と検証



SDGsという視点で教材を捉え、中学校社会科の授業を実施していくために必要な方向性



その他の研究テーマ

・学習面、社会面、身体面から児童生徒を包括的に支援するプログラム（コグトレ）の実践研究